

国際交流基金事業助成報告書

薬学部 2年次生 玉村 麻有

3月4日～3月18日までの15日間、オーストラリアのニューサウスウェールズ州キングスクリフにて薬学・語学研修を行いましたので報告いたします。

1. 現地研修校 TAFE での生活・授業について

今回の研修で通った研修校 TAFE は職業訓練専門学校であり、薬剤師や看護師といった医療関係の職業のほか、美容師・調理師など、様々な職業を目指すコースがあり、また幅広い年齢層の方々がこの学校に通っているのが印象的でした。

English Class では、オーストラリアの地理や歴史についてグループワークやゲームを通して学ぶことができました。また各自のホームステイ生活の中で知らなかった単語を持ち寄ってクラスみんなで共有することにより、実体験を通して英語を学び覚えていきました。

Pharmacy Class ではオーストラリアの医療システムや薬局の役割などを中心に学びました。英語で薬学について学ぶというのは想像以上に難しく、先生の説明を理解するのにとても時間がかかりました。先生は私たちがより多く理解できるように、具体的な例を挙げ、日本の医療システムと比較しながらゆっくりと話を進めてくださりました。日本における薬剤師の役割と、オーストラリアにおける薬剤師の役割は似ているところもあれば、異なっているところも多く、初めて学ぶ内容ばかりでした。さらに、ただ座って学ぶだけでなく、実際に現地の薬局を訪問することで、より理解を深めることができました。また、大学見学では実際に軟膏を調剤させていただいたり、お菓子をいながら実際に薬剤師の方がされている投薬管理を体験させていただいたり、貴重な経験となりました。



写真 1：薬局見学



写真 2：投薬管理

異文化交流学習では、アボリジニの文化や生活について学びました。実際に使われている木の実や葉などの植物を食べてみたり触ってみたりしました。今までにない経験ばかりで、驚きの連続だったことをよく覚えています。また現地の小学校を訪問し、異文化交流も行いました。私は小学生と一緒にかるたを行いました。アルファベットを用いた手作りのかるたを、かわいい！とたくさん褒めてくれました。英語でかるたをしたことがなかったし、ルールの説明などが難しくとても緊張していましたが、小学生たちはとてもフレンドリーで、一緒に楽しむことができてよかったです。



写真 3：異文化交流で遊んだかるた

2. ホームステイについて

私のホストファミリーはとてもやさしい孫思いのご夫婦でした。最初は自分の拙い英語が通じるのか不安で、自分から話しかけることが怖くて仕方ありませんでした。ですが、夕食の時などホストファミリーと会話を重ねるうちに、徐々に自分の英語が伝わるのがとても楽しく感じるようになりました。英語での伝え方や言い方がわからなかったときは、これは英語で何というのか、と積極的に質問して、ホストファミリーとの会話の中で出てきた単語や言い方を真似して口に出していくことで、座学として英語を勉強するよりも、日常会話としての英語が自然と身につくような気がしました。3日もあればホストファミリーと冗談を言い合えるくらいには打ち解けることができました。今まで受け入れた日本人の留学生の中で一番英語が話せているよ、とホストファザーが言ってくださったときは、お世辞でも本当に嬉しくて、どんどん話しかけよう！と自信につながりました。放課後にはビーチに遊びに行ったり、ショッピングに行ったりしました。さらに、ステイ先が入り江に近かったため、日本ではなかなかできないカヤックもすることができました。また休日にはプールで泳いだり、ホストファミリーの孫のバースデーパーティーに参加したりしました。ホストマザーの知り合いが働いている Tropical Fruit World というところでは、オーストラリアで有名なたくさんのフルーツやマカダミアナッツなどを食べたり、カンガルーやアヒルに餌をあげたりと、とても楽しく過ごすことができました。最終日の夜には、お別れの手紙

と、マグカップやマグネット、キングスクリフのポストカードをプレゼントしてくれました。また、イースターの時に使ってね、と卵の形をしたチョコもいただきました。私にとってイースターはあまり身近でなかったのですが、今年はやってみようかなと思います。それだけでなく、私がもうすぐ20歳の誕生日を迎えるという話を覚えていてくれたようで、バースデーカードも用意してくれていました。まさか現地で誕生日をお祝いしてもらえるとはいちも思わなかったのが本当に嬉しかったです。同時に、自分が慣れない英語でホストファミリーに伝えたことがきちんと相手に伝わっていたこと、相手が自分との会話を覚えていてくれたこと、その両方を実感して、この2週間は本当に貴重な経験をさせていただいたのだな、と感慨深いものがありました。充実した2週間だったからこそ、お別れが本当に寂しかったです。今でもSNSやメールでやりとりをしていますが、オーストラリアでの生活が恋しいです。いつかもう一度会えたらいいなと思います。



写真 4: Tropical Fruit World



写真 5: ホストファミリーからのプレゼント

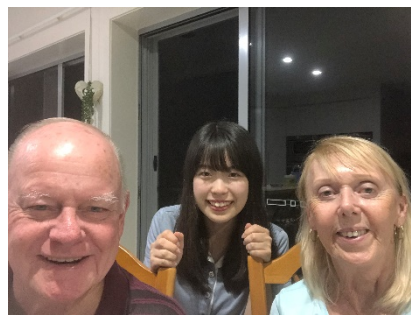


写真 6・7: ホストファミリーとの写真

3. 最後に

ホームステイをするのは私にとって 3 回目でしたが、何度経験したとしても、知らない国、知らない言葉、知らない家庭に飛び込むというのは言葉では言い表せないほど怖く、緊張するものでした。しかし、オーストラリアでの 2 週間を実際に終えてみて思うのは、知らない環境に飛び込むには、ほんの少しの勇気さえあれば十分だということです。心なしか、日本で生活しているときよりもずっと積極的になれたような気がします。2 週間という短い期間ではありましたが、現地での生活は刺激的なものばかりで、日本では経験できないたくさんのことができました。間違いなくこれからの長い人生の中でかけがえのない経験となりました。

最後にはなりましたが、このような機会を与えてくださったこと、この研修に参加するにあたって、支えてくださった多くの方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。